

第84回 草津市障害児（者）自立支援協議会 定例会議 次第

令和4年9月21日（水）

草津市役所2階特大会議室

午前9：30～11：30

開会

報告

1. 草津市基幹相談支援コーディネーター事業
 - ・「草津市障害児（者）自立支援協議会のホームページ」の開設の紹介
 - ・「社会資源の検索」の紹介

2. 部会等の報告
 - ・相談支援部会
 - ・放課後等デイサービス事業

3. 新規加入構成機関の紹介と構成機関からの報告等
 - ・草津市子ども家庭・若者課
 - ・成年後見センターもだま
 - ・一般社団法人びわこ薬剤師会
 - ・社会福祉法人若竹会
 - ・草津手をつなぐ育成会

4. 草津市危機管理課出前講座
 - ・お話 「障害者支援と災害対策」
講師 草津市危機管理課 橋本 啓嗣氏

 - ・会場からの質問

 - ・アンケート内容とその回答

 - ・全体を通して意見交換

次回

（案内）令和4年度 草津市障害児（者）自立支援協議会の今後の日程（案）

- ① 令和4年11月16日（水）9：30～11：30（定例会議） 草津市役所2階 特大会議室
- ② 令和4年1月20日（金）9：30～11：30（研修会） 草津市役所8階 大会議室
テーマ：「（案）地域生活支援拠点等事業について、甲賀圏域の取り組みを学ぶ」
- ③ 令和5年3月20日（月）9：30～11：30（定例会議） 草津市役所8階 大会議室

1. 今回の議題についての意見、質問などについて

●相談支援について

- ・まずは、本人が中心にいるかを相談員が忘れないこと。
その点で、いろいろな障害者関係の会議等に、障害当事者（家族）が参加することは重要である。“私たちぬきで私たちのことを決めないで” 支援側だけでは解決できないことに、光が見えてくると思う。

●相談支援体制検討プロジェクト

- ・草津市の相談支援体制の現状と課題が非常によくわかりました。
- ・基幹相談支援コーディネーターは、日々どのような活動をされているのかわからないし、保護者もよくわかっていません。詳細は業務内容や保護者や利用者と基幹コーディネーターとの関わり方について教えていただきたい。
- ・自立支援協議会のホームページはあるのですか。
- ・社会資源のパンフレットとは。パンフレットはどこへ行ったらもらえるのですか。

●草津市相談支援体制検討プロジェクト報告

- ・草津市の相談支援体制についてよく理解できた。また、課題がどこにあるかもわかり、福祉の充実のために取り組まなければならないことが、まだまだたくさんあると思った。

●草津市相談支援体制検討プロジェクト報告

- ・わかりやすかった。資料をまた読み返したい。また、各分野の方々の意見等もよく分かった。

●草津市相談支援体制検討プロジェクト報告

- ・相談支援体制プロジェクトに関しての報告について、本当にとっても強く同意する。
- ・現在の草津市の相談体制は正直弱く、ケースワークができていないと感じる。
- ・草津市の利用者に緊急事態が起こった際、相談員に連絡して相談しようと、現時点では思えないのが現状。それは、相談員が少ないこともあると思うが、そういった場合にこういったネットワークがあるのかなどを相談員が理解されていないように感じる。相談員には制度の理解、施設サービスの理解、家族状況の理解など、いろいろなスキルが必要となっていくと思うが、まずは利用者の現状を把握し、一緒に対応していくといった姿勢があると良いと強く思う。

●草津市の相談支援体制の現状と課題

- ・専任職員の配置という方向を市がすすめていくと仮定して、具体的にどうやっていくのか。

●一般

- ・必要なサービスをきちんと使えるような相談窓口を草津市に作って欲しい。
- ・計画相談なくては障害のある方がサービスを利用できないので、必要なサービスです。

しっかり本人の思いを受けとめて、あったサービスを提供して欲しいので、兼務はかなり厳しいと思う。おっしゃってる様に専任できる様に予算の充て方等を考えて頂いて、新規事業の頭打ちなら、しっかり専任できる様になれば良いと思う。

- ・ほっとココさんが改めて色々な業務を担っておられる現状を知り、大変な中たくさんの方を対応されているとの事で、分けている意味があるのかと感じた。相談員さんの激務は想像していましたが、続けていただくためにもきちんと報酬を考えて欲しい。

●一般

- ・児童発達支援、放課後等デイサービスをさせて頂いています。
それぞれの発達段階や家庭状況に合わせた社会資源を利用できるよう、提案したり繋いでいけるよう、自分の知見を広げたり、回りに頼る窓口を見つけることができるようにしていきたい。色んな社会資源の紹介（基本的な事を含む）

2. 自立支援協議会の運営等、全体的なことでの意見について

- ・たくさんの意見が出るようになりよかった。
- ・市の役割、事業者の役割、地域の役割、もちろん本人の役割を整理するためにも、お互いを理解する場であってほしい。その上で、いらぬしがらみ、思い込みを払拭すれば、より良い連携が出来上がるのであろう。
- ・様々な意見全てをかなえる事は難しい事だと思いますが、いろんな体制が整ったり、他の地域でもいいので繋げていけるようになるとよいのかなと思う。
- ・地域移行定着と住まいの確保の課題を一緒に検討していく場が必要だと思う。
- ・委託相談の場をどのように増やしていくのか。どこで検討するのか。
- ・初めて出席させていただきました。A型事業所の話が聞けてうれしかったです。
ただ、いろいろ難しい現状に不安にもなりました。事業所が足りないことは知っています。子供が選べる仕事の実現できるように願います。
- ・それぞれの立場で繋がっていくことの大切さを感じた。情報共有は分野を超えてとても大切なことだと思う。（利用者のためにも）
- ・報告③「障害者福祉サービス事業所の現状について」に記載があるように、草津市には生活介護施設が増えているが、その状況や課題などについて、なかなかお互いに理解、共有する機会がない。

3. その他、気づいた点について

- ・「」相談“する人を利用者が選べたらいいな”という家族の声。相談だけではなく、対人援助（介助・就労…）は、人と人との合う、合わないが大きい。利用者から選んでもらえるような（指名してもらえるような）相談者になれるよう努めたいと思う。
- ・各部会の報告の際、連協さん以外の報告の声が小さくて何を言っておられるのか聞き取れなかったのが、今後は大きな声で、ゆっくりと説明してもらえたらありがたいです。
- ・相談がうまくいってもサービスが不足していると意味がないので、合わせて施設整備に補助金を出してほしい。サービスの充足を願っています。
- ・施設連協の災害に関する協議を聞いて良かったです
- ・大変有意義でした。

●業務

1. 障害の種別や各種ニーズに対応できる相談窓口や、新規ケースの緊急的な相談支援や相談支援事業所等への引継ぎ
2. 地域の相談支援体制強化
3. 障害者自立支援協議会等の運営等に関すること
4. 社会資源の活用支援
5. 権利擁護・虐待防止（虐待事案の会議への参加やフォロー・予防啓発）
6. 地域移行・地域定着促進の取り組み
7. 地域生活支援拠点に関すること

●草津市の相談体制（令和4年8月）



●基幹相談支援コーディネーターはどんな業務をしているのか？（抜粋）

- ① 障害種別を問わず、様々な機関から相談があった場合の窓口となり、関係機関につながります。
- ② 相談支援専門員の支援や人材育成の研修の実施等
 基幹相談支援コーディネーターは上の図の第3層の相談機能になります。市内の相談支援事業所＝計画相談支援事業（第1層）や、第2層の委託相談支援事業（草津市立障害者福祉センターと地域生活支援センター風）の相談員の業務の相談にのったり、支援方法を一緒に考えたりします。相談支援専門員のスキルアップのための研修会を企画したりします。
- ③ 市内の相談支援事業所に巡回訪問
 相談支援専門員が所属する事業所に巡回訪問し、相談支援体制の充実に向けた提案などを施設の長と相談支援専門員からお話を伺い一緒に考えます。相談体制検討PJの報告の実施。
- ④ 障害児（者）自立支援協議会の活動
 8月からは、幅広い障害福祉の分野別の現状や課題を把握し、一緒に解決に取り組めるよう課題別懇談会を行っています。重度心身障害や発達障害等関係機関の方々と懇談し、ニーズに合わせて継続的に検討ができるよう、部会などに発展できるように活動しています。
- ⑤ 把握しやすい社会資源検索の工夫…「自立支援協議会のホームページのアップ」
 「草津市立障害者福祉センターのホームページ」→「自立支援協議会」→「障害福祉サービスの検索」

草津市自立支援協議会 部会・プロジェクト活動報告

部会・PJ名	相談支援部会	報告者	小林氏
部会長	小林氏（大地）		
副部会長	中原氏（わかたけ）、藤澤（ほっとココ）		
参加機関 ・ 委員	おひさまハウス、クロスロード、草津市発達支援センター、ディフェンス、わかたけ、風、アザレア、はたらこっと、大地、歩歩、ほえーる、キンカン、栄寛、障害福祉課、基幹コーディネーター、ほっとココ		
事務局	草津市立障害者福祉センター		
活 動 報 告			
R3 年度のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の思いに添った質の高いサービス等利用計画書の作成を目指し、研鑽する ●他機関との連携や相互協力が活発に行えるように情報共有をする ●地域課題の共有と検討 		
回数	開催日時	概 要	参加数
第 1 回	令和 4 年 4 月 27 日 13 時 30 分 ～ 14 時 30 分	<p>【テーマ】意見交換・事例検討</p> <p>【会 場】草津市立障害者福祉センター</p> <p>【内 容】○今年度の部会の進め方についての確認</p> <p style="padding-left: 20px;">○計画相談の実態（報酬で請求できない支援についてなど、各相談員の業務の実態を報告）</p> <p style="padding-left: 20px;">○事例検討：事例について 2 グループに分かれての意見交換</p>	機関数 11 人数 13
第 2 回	令和 4 年 5 月 19 日 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分	<p>【テーマ】介護保険と障害福祉の連携</p> <p>【会 場】草津市立障害者福祉センター</p> <p>【内 容】事例報告を踏まえて下記の事項等について検討した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に応じた支援とは何か ・介護保険へ移行した際、通院介助等の障害の支援との違い ・加齢に伴う身体機能低下のアセスメント <p>⇒解決に向けてワーキングチーム等を設けて検討するか方向性を考える</p>	機関数 6 人数 12
第 3 回	令和 4 年 7 月 21 日 13 時 30 分 ～ 15 時 00 分	<p>【テーマ】精神障害者の地域での暮らしの課題についての事例検討等</p> <p>【会 場】草津市立障害者福祉センター</p> <p>【内 容】○参加機関からの近況報告</p> <p style="padding-left: 20px;">○新規事業所紹介、告知（居宅介護事業所「心のさと」）</p> <p style="padding-left: 20px;">○事例検討、意見交換（上記テーマについて）</p> <p>⇒結果としては、課題の共有と社会資源の乏しさの再認識止まりだったが、今後、「障害を持つ人の加齢変化を学ぶ」学習会の予定を告知した</p> <p style="padding-left: 20px;">○その他：去年度からの検討事項である「虐待」と「入浴」の件は引き続きテーマ設定をしてほしいという意見があった</p>	機関数 11 人数 14

草津市放課後等デイサービスの取り組み（6月～8月分）

- ・情報交換交流会を9月15日に実施しており、市内事業所で長期休暇中の活動内容や大雨の時の送迎の状況、加算や最低賃金の上昇にかかる取り組みについて意見交換しました。
- ・研修会を9月20日実施し、4つのグループに分かれてテーマに応じてグループワークを行いました。テーマは、事業所へのアンケートを通して「平日や長期休暇の取り組み内容」、「性教育・思春期の過ごし方」、「学校や児童発達支援、就労系サービスとの連携」を設定して事業所からの実践報告に基づき理解を深めました。

草津市危機管理課出前講座

草津市障害児（者）自立支援協議会定例会議

令和4年9月21日(水)

・お話 「障害者支援と災害対策」

講師 草津市総合政策部 危機管理課 橋本 啓嗣氏

本日の内容

1. 近年の水害土砂災害の発生状況
2. 土砂災害とは
3. 水害・土砂災害への備え方(どこが危ないかを知る)
4. 水害・土砂災害への備え方(いつ危ないかを知る)
5. 避難確保計画について
6. 災害時要援護者登録制度について
7. 個別避難計画の滋賀モデルについて

(ご了解)

本日の出前講座の資料については、資料について一部検討中の内容を含むため、ホームページの掲載を行いません。

自立支援協議会の構成機関で、当日ご参加いただいていない事業所様や団体様には、資料を送ることができますので、事務局まで連絡してください。

●草津市立障害者福祉センター 草津市障害者自立支援協議会事務局

(事務局) 基幹相談支援コーディネーター 寺嶋
草津市立障害者福祉センター 大道

(連絡先) 電話 077-566-5140
FAX 077-569-0354

メールアドレス Kusatsu-fukushi@fuga.ocn.ne.jp

R4年度草津市障害児（者）自立支援協議会定例会防災に関する事前アンケート
 （回答件数52カ所/複数回答有） R4.9.21

質問:あなたの所属は?

	分類	回答数
①	当事者	1
	親の会や育成会	1
	通所作業所・施設	13
	ヘルパー事業所	8
	相談支援事業所	4
	放課後等デイサービス事業所・児童発達支援	12
	学校・教育関係事業所	2
	行政	8
	民生委員児童委員	1
	市民会館等	2
	その他 グループホーム 1 社会福祉協議会 1 ボランティア連絡協議会 1 薬局・医療機関 2	5
	合計	57

質問:あなたの担当の利用者(または家族)は「要援護者」に登録していますか?

②	登録している	登録していない	知らない	無記入	回答数
	5	16	23	6	50

質問:あなたの担当の利用者(または家族)は、災害時の避難方法や経路、同伴者を想定していますか?

③	避難方法(徒歩・車・その他)	避難経路	誰と同伴するか	無記入	不明	回答数
	30	19	14	15	1	79

質問:あなたが過ごす場所はハザードマップの危険区域ですか?

④	自宅が危険地域	職場が危険地域	危険地域ではない	知らない	無記入	回答数
	6	10	32	4	3	55

質問:あなたの所属する事業所や団体が取り組んでいるものはありますか?

⑤	避難行動計画の作成	福祉避難所の締結	備蓄 (毛布・食料・発電機・土のう袋・担架)	その他(検討中 1 水 1 一日分の薬 1 トイレ 1 車輻/バッテリー電源、広域避難場所の場合のドクターヘリの発着場所の確認と全国の連携する支援団体の確認、近隣病院の医療用非常電源の場所確認 1)	無記入	回答数
	29	12	18	5	10	74

**R4年度草津市障害児(者)自立支援協議会定例会
防災に関する事前アンケート ② (回答件数 52 ヲ所/複数回答有)**

★回答のカテゴリー別まとめ

6. 障害者の災害対策で市の危機管理課に整備してほしい事(物)は何ですか？

●個別避難計画

- ・災害時要支援者、特に医療的ケア児者や重症心身障害者などのハイリスク者に対しての災害時個別避難計画(滋賀モデル)の早期実現。危機管理課だけではなく、障害福祉課、保健所(医療的ケア児者担当)が連携し、実現させる。

●災害対応計画

- ・2011の東日本大震災で支援団として、現地ですらい経験を多数しましたが、被災地での重度障害や疾病の方々が、災害地や避難所での生活は命の危機につながるので、遅くとも3~5日程で被災地ではない県外の安全な病院や施設にヘリや自衛隊車輛等で安全に移動できる手段を計画、想定して下さい。
- ・市内の広域避難が必要な要援護者数とその移動手段、移送先を計画し、当事者には事前にイメージングしていただける様、計画と訓練を緻密にお願いしたい。
- ・災害時の対応のマニュアル整備(組織表等)・・・2人

●備蓄

- ・備蓄の準備
- ・発電機や個別スペースが確保できるパーティション等
- ・隣保館は第一次避難所ではないので、市からの食糧は優先的に届かないが、地域住民は隣保館を頼ってくるので考慮してほしい。
- ・ペースト食、トロミ剤の備蓄 大人用子供用のオムツの備蓄(障害者用として)

●情報

- ・詳しい情報を発信してもらいたい。
- ・災害時の避難行動についてわかりやすい指示をお願いします。・・・2人
- ・具体的な支援方法をもっとわかりやすく示していただきたい。
- ・地域の中で、障害者さんの避難場所が、すぐに分かるマップが欲しい。地域にどれだけの障害の方がいるのかがわかるといいかなあ。
- ・要援護者申請用紙を施設に送って欲しい。福祉避難場所となった場合の流れを知りたい。(連絡方法、食料などの配給方法など)
- ・重度心身障害の方や強度行動障害のご本人・ご家族に大規模災害時(地震・豪雨)に対して、不安に感じている事・困るだろうと思う事等のアンケート協力をお願いします。大地震や記録的な豪雨災害を想定した内容の質問を当事者・ご家族に回答していただく事から始め、危機管理の整備を進めて頂きたい。そもそも災害時に何処に・誰に SOS を出せばさえもわからず不安を抱いておられると思います。
- ・緊急時の地域避難場所一覧・連絡先
- ・障害者専用(例えばバリアーフリー)のハザードマップがあれば配布して欲しい。無ければ作成してほしい。

- ・各事業所個別での巡回点検と相談。避難場所開設の目安について教えて欲しい。
- ・行政、福祉事業所、本人（家族）、民生委員（町内会）の各自がすべきこと再度教えていただきたい。

●ネットワークづくり

- ・有事の際に日頃からの横のつながりが取れるように密着した草津市内のネットワーク
- ・情報共有及び救援要請に使用できるネットワークの構築
- ・要援護者の登録に関する広報、他団体への協力体制整備

●設備

- ・公共の建物のバリアフリーやエレベーターの確認（避難所）
- ・福祉避難所だけでなく、どんなどころにもコミュニケーションボードなど情報共有手段を整備して欲しい。
- ・避難場所のスロープの整備。歩道の整備
- ・公的などころに連絡が取れるための準備。充電できるもの。明かり。簡易テントなど
- ・場所（車いす・パニックになった子等）の確保をして欲しい。何か遊ぶもの（手持無沙汰になると唐突な行動が増えるため）
- ・草津養護学校の立地的に災害で道路が分断されると、陸の孤島になることが心配です。対策等があれば教えて欲しい。（学校とびわこ学園の入口が一本しかない。もう一本出入りできる道が欲しい。イサム塗料に抜ける道やメイプルに抜ける道など）。本校は防災備品がカー所に置くスペースがなく、バラバラに保管されている。防災があった際にはここに行けばよいといった「防災倉庫」があるとよいです
- ・個別に過ごせる宿泊施設

7. 通所作業所など、災害に備えて自らできることは何ですか？

●訓練・フローチャートの作成・見直し

- ・利用者が通所している時に災害が起こったことを想定し、家族と連絡方法の確認や引き渡し訓練、個別の避難方法（医療機関等への避難が必須など）の共有理解を確認する。
- ・ハザードマップの確認と災害を想定した避難訓練をする。・・・10人
- ・大雨・洪水・地震・火災などの災害がもし利用者が放デイにいる時に起こった時、どのように利用者を守り安全にかかわるのかを月に1回実施。
- ・方法の見直し。設備の点検
- ・組織行動計画策定と防災訓練及びそれらの定期的見直し
- ・自宅からの避難経路の確認・・・8人
- ・避難場所・・・2人
- ・二つに分けて考えています。①通所日の対策→避難通路の確保と避難場所の周知。②通所日以外の対策→職員の緊急時の連絡網とフローチャートの作成。
- ・避難マニュアル作成
- ・災害時のシミュレーション
- ・利用されておられる方の緊急連絡先の確認。避難経路の全員把握
- ・ご家族と常に火災や災害について話し合い、避難方法や避難先をそれぞれ確認し、大規模災害の時の連絡先や集合場所（病院や担当医）の確認を毎年行い話し合っておく。豪雨や台風時は事前にデイサービスを閉鎖し安全な場所で過ごしていただけるよう事前に通知している。

- ・避難訓練（火事・地震・水害）、児童生徒引き渡し訓練・・・2人
備蓄の確保（教員生徒共持参して保管）等
- ・災害に備え、災害時の担当部署の役割、業務の再確認、準備等
- ・事業継続計画を職員全員での見直し

●情報

- ・緊急連絡先などのリスト、避難計画の作成。避難先や避難経路の確認
- ・職員間で避難経路等を共有

●備蓄

- ・備蓄できる物はしておく・・・2人
- ・水や食料は若干準備している・・・3人
- ・食品備蓄・・・3人
- ・衛生用品や医薬品・資材の備蓄・・・2人
- ・避難訓練で利用者に水と一食分の保存を配布

●避難所の提供

- ・有事の際に通所作業所を開園して避難場所にする。
- ・避難所としての活用

●ネットワーク

- ・日常で地域住民、地域組織とつながっておく。
- ・周囲地域との連携
- ・事業所が防災について想定・情報共有

●自分の情報のまとめ

- ・個人情報シートの整備（既往歴や服薬の状況などが伝えられるように）。

8. 各自が準備できることは何ですか？

●地域とのつながり・訓練

- ・事業所内、また利用者家族に対して防災意識を高めるための取組み。居住地域との繋がりづくりの必要性（災害時、障害のある人が取り残されないために）
- ・避難訓練に参加する・・・3人
- ・あらかじめ避難方法や避難経路を想定しておく・・・4人
- ・今後、医療DXとして使用中の薬を有事には開示されます。また、県内の薬局では、備蓄医薬品情報を共有するシステムがあります。皆様におかれましては服用中の薬を把握し、いつでも持ち出せるよう準備。
- ・職員間での日頃からの意思疎通（情報共有、協力体づくり）
- ・災害時連絡が来るような携帯などの登録、備蓄他準備
- ・ハザードマップ・避難所の確認。情報収集手段の確認

●備蓄

- ・避難グッズや緊急時に対応できるよう、日頃から準備しておく。
- ・食品備蓄・・・2人
- ・備蓄・一週間分の水と食料
- ・充電器の設置（スマホ、パソコン、明かり等）
- ・小さな備えとして生活する上で必要なものを最小限準備しておく事
- ・援助手段として使う自家用車に災害用品を備える。
- ・医療機器使用者には予備バッテリーや車両電源を備えて頂くよう通知
- ・経管栄養食や飲料水、薬や備品の備蓄は2週間以上行うよう通知
- ・災害時スタッフは自宅や家族の安全を確保し余裕が出れば利用者の安全確認や避難所を訪れ、広域避難等の支援に尽力するよう協力要請を行っている。
- ・バスタオル・タオル・毛布、飲料水など。備蓄する量がどれくらい必要か何日分を用意する方が良いか難しい問題です。

●家族内の情報確認・共有

- ・個別避難計画の作成
- ・災害を想定して家族への連絡方法や帰宅経路などの確認・・・4人
- ・安否確認方法の話し合いをしておく事
- ・緊急連絡表作成

●利用者への支援

- ・利用者さんの災害の準備やマップの作成も同時にしていかなければいけないと思う。災害はいつくるかわからないから・・・。
- ・利用者の災害に対してどのような状況となるかを（特性の表出など）しっかり把握しておくこと。

●情報確保

- ・薬や病気の情報、病院の情報を記載しておき支援してもらう人にしっかり伝えられるようにする。
- ・災害時の行動についての知識を周知する。
- ・防災情報メール配信サービスへの登録など。
- ・避難行動計画の作成
- ・災害に対しての訓練、行動確認
- ・就業時間内で起きた時とプライベートで起きた時の対応の違いを理解しておくこと。
- ・あらゆる立場（職場・家庭等）での自分と周りの人との安全確保の想定。
- ・家族単位で防災について、想定・情報共有、そのうえで食材・資材などの備蓄、避難行動とそれらの更新

1. 今回の議題についての意見、質問などについて (原文のまま)

(1) 災害時要援護登録者制度に関すること

- ・精神障害者家族会からの意見です。災害時要援護者登録制度について、その用紙を福祉事業所にも頂きたいという質問がありました。私も同感です。
また、その用紙の項目に、緊急連絡先として地域の知り合いの人の電話番号の欄があり、私はその箇所が埋められないので、登録はしたかったのですが提出できませんでした。精神障害者の家族や一人暮らしの当事者は、地域の中で孤立している方が多いです。知的や身体障害者なら民生委員さんにリストアップされていますが、その制度もなく地域の中で知られずに暮らしている方がほとんどです。要援護登録制度はいい取り組みだと思いますが、地域に知り合いがいる人は地域で援護を受けることもできます。地域で孤立している人のための援護を考えていただきたいと思います。
- ・災害時要援護者制度の申請書類の中に、避難支援者を記入しなければいけません。重い障害のある者の家族として、近所で親しくしている方に、その方も被災者であるため依頼しにくい。障害者は民生委員との繋がりもないことが多いため、支援者の人の名前をあげにくいです。この項目が記入できないが故、申請できない方もおられます。
- ・要援護者申請は一度出したらそのままなので、児童の場合は更新しないといけないと思う。

(2) 避難誘導方法・避難所・ハザードマップについて

- ・先日の台風14号の際、草津市は早い段階で避難レベル3を出し、まちづくりセンターを開設していただきました。地域の町内の町役をやっている関係上、独居の高齢者については、町もリストをあげ把握されており、避難所開設のお知らせと不安な時は避難所へという案内を対面でするよう、町内会長の指示があり、町役として対応しました。
しかし、町内の障害者に対しての情報や声掛けなどのリストは開示されることはなく、指示もありませんでした。地域における障害者、特に一人暮らしの障害のある方についての災害時の備えや避難へのサポートなどが課題であると感じました。地域と障害のある方との繋がりが、かなりうすく災害時、障害のある方が取り残されるのでは？という不安さもあります。また、本会にて検討いただきたいと思いました。
- ・先日の台風の際、緊急メールが発信された。障害のある方はみな驚かれ、不安になったと思われる。通知の表現は工夫が必要かもしれない。移動しやすいうちに避難するのがベストではあるが、全戸に対する避難メールでは、なかなか判断が難しい。自宅にいる方が安全かどうか・・・。
ハザードマップを日頃からみしておくこと（支援者・当事者ともに）。
避難所の確認などを意識しておかないといけない。特に車いすに対応できない小規模避難所と大規模避難所、福祉避難所との連携は必要であるが、どの避難所も車いす等に対応できる体制（スロープ・ブルーシートを敷くなど。介助人員含む）を早いうちに整えてほしい。
- ・今週の台風時にも避難された高齢者の方もいますが、避難先の職員さんの対応が良くないとききました。もし、その場に障害の方がいたら対応はどうなるのでしょうか？安全を求めて避難されていても、対応がしっかりしていないと避難できないと思います。
- ・避難するかしないかは個人の判断ともいわれましたが、独居も障害者がある判断を適確できるかどうかは疑問です。

(3) 個別避難計画について

- ・滋賀モデルの情報など、大変参考になりました。
- ・個別に支援計画を配布されているようですが、施設内の利用者に聞いてもみんな知らないと言われました。改めて選定と支援計画の周知方法を検討してほしい。

(4) 障害者支援と災害対策への全体の意見

- ・わかりやすかった。
- ・大変参考になった。
- ・災害に関する制度や取り組みについて学ぶことができてよかった。障害福祉と関わる視点を教えて頂いたので、関係機関と一緒に考えていきたい。
- ・アンケートが事前にあったので、当日はもう少しスムーズな回答方法があればより良かったと思う。
- ・P8 防災に関するアンケートについては、一問一答が長く感じられた。書面にてQ&Aにすれば見てわかると感じる。
- ・障害と地域のつながりをどのように作っていくのか？「共助」のための備えを考えるべきだと思う。
- ・様々な意見が聞けてよかった。今までのような防災対策ではなく、日々考えて改善していくことが大切と感じた。今回の講義を聴いていても市とのそもそもの考え方の違いが大きいと感じた。これを埋めていくために、まずは身近なところで話しをすすめたいと思います。
- ・目標や指針、いつまでに何をする課題、解決しなければいけないこと等、もう少しセグメントを狭くした明確な「活動目的」をかかげれば、みな業務内容（相談員・通所・GHなど）が違う中で、ビジョンを合わせやすく、ある意味活性化すると思います。
- ・相談支援とは？生活介護とは？居宅介護とか？など各サービスの内容を、ひとつの事業所を例として一日の取り組みを発表するなど、具体的に説明してもらうのもよいのではないかと。
- ・事業所で避難訓練は行っている。地域ごとの大規模な訓練はできないのでしょうか。
- ・国の制度、市の制度の管理も必要かも。
- ・あまり、重点が理解できませんでした。一番に何を伝えたいのかが分からないままでした。

2. 自立支援協議会の運営等、全体的なことでの意見について

- ・びわこ薬剤師会さんの取り組み、ぜひ活用したいです。
- ・当施設と関わりが深そうな部会等に参加したいと考えているが、どうしたらいいかわかりにくい。紹介してほしい。（してもらえると参加しやすい）
- ・社会資源の検索ができるようになりよかった。
- ・いつも内容が工夫されていて、大変勉強になった。
- ・各福祉部にて、困っていること等を話ができる場（連携できる場）がほしい。様々な分野の方々が来ているのもっと話がしたい。

3. その他、気づいた点について

- ・後半、周りを見ても下を見たり、寝ている人もいたので、さらによりよい会議にしてほしい。
- ・もし可能なら、メンタルヘルスの研修をしてほしい。以前、自殺予防研修を受けた時、支援者自身のメンタル（生きる姿勢）についてもお話しいただき、自分の肩の力が抜け、軽くなった。（とても良い講師でした）もっと言えば、自立支援協議会に集う人たち（同士）が仲間であるという意識が生まれるような心をもみほぐす研修があれば・・・。

アンケートの中の質問について、第85回自立支援協議会定例会で説明する予定です。